

社会実装に向けた防災分野の適応関連研究

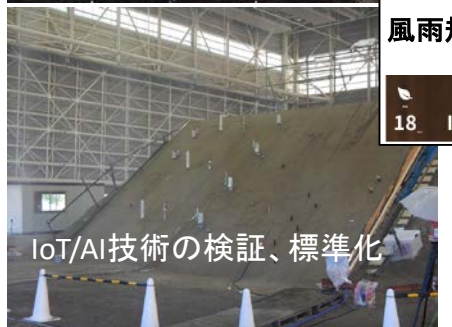
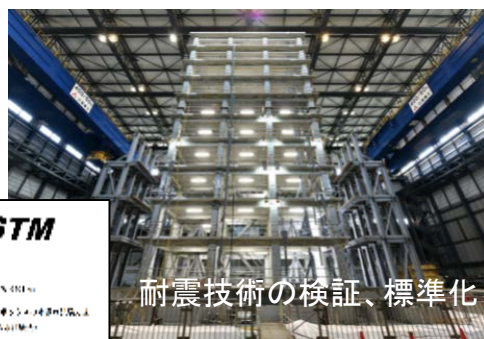
1.背景

- 仙台防災枠組み2015、CBD-COP12,13、G7伊勢志摩原則2016(質の高いインフラ)
- 生態系を利用した災害リスクの脆弱性と暴露性の低減(eco-DRR, グリーンインフラ)
- 気候変動による災害の激甚化、多重防御を考慮したレジリエンス力の向上

2.課題

- 他分野間・機関間の連携(共創(trans-disciplinary))による地域での課題解決
- 環境、地域振興、防災減災の三位一体による住民目線による共創
- 災害リスクの定量化→ICT、IoT/AIを用いた科学に基づく適応策が必要不可欠
- 実社会及び産業界と連携し、科学と社会の協働を促進できる人材・情報・技術の基盤

科学的知見を生かしたリアルスケール実験 (企業との共創によるイノベーション、適応関連研究の推進)



風雨規格(例)

18 IP55

共創によるレジリエントな社会へ (デジタルツイン、Society5.0の推進)

地域と連携

住宅(Smart city)

ドローン

リスク評価

SIP4Dデータ流通

宇宙技術

自動走行

IoTセンサー

ICT技術、SLAM、リスク評価、シミュレーション